2014年2月号「vol.44」 ◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

生活習慣病をなくすことで脳卒中や心疾患の未然予防を「未病を治すかながわ宣言」皮切りに総ぐるみで展開

経済成長社会から成熟社会へ。日本は20年ほど前から時代の移行期にあり、急激な少子高齢化とグローバル化の波に洗われています。生活の面でも、それまで家族が中心となって担ってきたお年寄りの看護や介護を、社会で公的に担うという考えに変わったものの、急激な少子高齢化の影響で社会保障費が急増し、その見直しが必要です。とともに国は「健康長寿の人生」をモットーに健康増進法を定め取り組みを進めています。

神奈川県でも「神奈川健康プラン21」に則った施策を進め、2013年の新年には黒岩祐治知事が「健康寿命日本一」を重点目標に据えることを宣言しましたが、今年2014年はこれを受けて「未病をなくすかながわ宣言」を行いました。超高齢化社会を幸せに生きるには特定の疾患の予防・治療にとどまらず、心身の状態を整え改善することで生活習慣病や要介護状態を防ぐ「未病を治す」ことが肝心との考えから、国や全国の自治体に先駆け、今回の宣言を行いました。「超高齢社会を幸せに生きるには未病を治すことが大切」という価値観を県民文化として育てることを目指し、同宣言をその皮切りとしました。このための取り組みとして「バランスの良い食生活」「日常生活に運動などの身体活動を採り入れる」「人と人との出会い・ふれ合い・交流を進める」の3つを掲げ、行政は考え方の普及、県民は取り組みの実践、企業・団体は県民の実践につながる創意工夫を展開していくことをうたっています。

≪高齢化率≫65歳以上の人口は2010年で神奈川県が20.2%（全国23%）。 2040年には神奈川県35%（全国36.1%）と、神奈川は高齢化のスピードが速いのが特色。

≪医療・介護費用≫2011年に神奈川県民が使った医療費は2兆3859億円。介護費は4078億円。

≪肥満≫小児期（1～17歳）の肥満、特に片親か両親が肥満している場合は高頻度で成人肥満に移行する。小児期の生活習慣は成人期（21～29歳）に持ちこされやすい。

≪野菜の摂取≫緑黄色野菜は1日70g以上、その他の野菜・キノコ類合わせて200g以上の野菜の摂取は、血糖やTGの良好なコントロールに結びつく。

コレが言いたい！

「未病」「未病を治す」という概念がまだ県民に浸透していないので、まずは「未病」「未病を治す」について広く周知していく必要があります。また、「食」「運動」「社会参加」の3つの取り組みを年齢に関係なく実践できる環境づくりが必要です。京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区で行っている最先端医療と未病を治す取り組みを合わせることで、健康寿命を伸ばし高齢になっても誰もが生きがいを持って健康に暮らし、長生きして幸せだったという社会を神奈川県から実現していくことをバックアップしていきます。

今月のひと言

神奈川県庁では本庁舎の公開を行っています。今後の公開予定日は、2月9日（日）、16日（日）、3月9日（日）。3月9日の公開日より本庁舎ガイド「キングサポーターズ」が本庁舎内を案内し建築や装飾についての解説を行います。

磯子 あれ？これ？

杉田梅林

元来杉田地域は、穀類を栽培するのに不向きのやせた土地で、約400年前、領主間宮信繁によって梅の木を植樹し、その実を売って生活の一助としたのが杉田梅林の始まりと言われ、その後屏風ヶ浦地区から富岡方面まで広く植えられ、江戸中期から明治中頃まで梅の名所として、その名が広く知られるようになりました。

しかし、先の戦前・戦中・戦後の混乱期には、観梅どころの話しではなく時代の変遷と共に伐採され、数十本の銘木が本牧三渓園に運ばれたと言われております。

現在では、杉田妙法寺に杉田梅の原木と言われている古木が残っています。

また境内には明治中期に、孝明天皇妃や明治天皇の妃英照皇太后、照憲皇后が行啓された記念碑が、今でも「天覧梅」と記され建っています。

春ともなれば白い花や紅梅としてゆかしい香りを境内一杯に放ち観梅に訪れた人々を喜ばせています。また、区役所始め地元有志の方々による「杉田梅復活運動」も行われております。

参考資料：杉田の歴史・故郷賛歌と国内旅行記より

洋光台「梅の里まつり」2月22日（土）・岡村梅林「梅まつり」3月2日（日）

活動報告

1月18日（土）多くの方にご参加頂き「あらい絹世後援会　成田詣・新春のつどい」を開催致しました。

社会問題対策特別委員会では1月27日（月）から29日（水）沖縄県の視察を行いました。日中おむつゼロ、胃ろうゼロを達成し自立支援介護に取り組んでいる「特別養護老人ホームしらゆりの園」や母子家庭の個別状況に応じた就労支援や生活支援など自立支援を行う「マザーズスクエアゆいはぁと」などを視察しました。

リハビリ用介護ロボットHALを使用したリハビリ施設「湘南ロボケアセンター」が12月26日に開所しました。

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成23年4月　県議会議員初当選
- ●厚生常任委員/社会問題対策特別委員
- ●自民党神奈川県議団副団長

✉ あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451